

## パソコン処理による

### 素材概算販売の簡略化（833）

（引渡し数量把握）

小国署・事業課 五十嵐 明  
事業課 金子 津代志  
製品事業所 ○本田 誠

#### 1. はじめに

当署は、飯豊朝日連峰にいだかれた風光明媚な小国町に所在し、小国町の総面積の7割に当たる約5万haを管轄しており1町1署の特徴を有しています。

当署の製品生産事業は1事業所で夏3セット、冬1セット体制のもとに年間生産量5,600m<sup>3</sup>（3年度予定）を実行しています。また、当署は局管内でも有数の豪雪地帯であるため製品生産事業の対象資材であるスギについては根曲り・胴曲り等の多い立木が多く見受けられます。

小国署の販売方法は、そのほとんどを山元概算販売の自由採材方式（画一的な定尺採材とは異なり買受業者が直接土場に搬入された材を、契約数量全量について立会いのうえ点付けを行い希望する材長に採材して引渡しする方法）で実行しており、県内外の買受業者から好評を得ています。また、市況が低迷している中、上廻り率に不満はあるものの不落もなく完売しています。

一方、現場の計測業務については

- ①長級が多種多様であること
- ②概算物件明細書への材積記入が容易でないこと
- ③概算物件明細再掲表の作成に苦勞していること

などの問題点がありました。これらの問題点を解決するためにパソコン利用に取り組み実行したところよい成果が得られましたので紹介します。

#### 2. 自由採材方式とは

この方法は、以下の要領で素材の引渡しを行うものです。

##### （1）材の搬入

(2) 点付け (写-1)

長級が多種多様

写-1



(3) 造材

(4) 全木両木口表示 (写-2)

トラック積み込み後、読み取り検  
知を行うため両木口に表示が必要

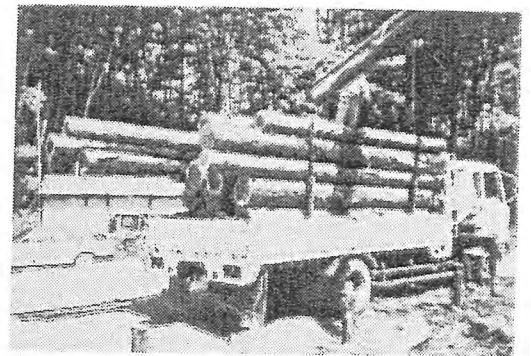
写-2



(5) トラック積み込み (写-3)

多種多様な素材を積み込む

写-3



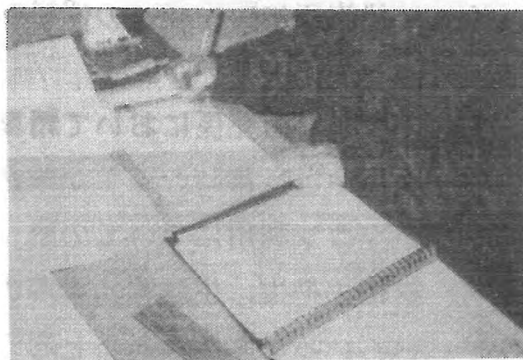
(6) 概算物件明細書へ記入

長級が多種多様のため記載が容易でない

(7) 概算物件明細再掲表等の作成 (写-4)

写-4

一契約毎に買受業者が入れ替わるため、毎日整理しておかないと仮評定、精算に間に合わないため



3. 問題点と対応策

この自由採材方式による問題点等を現場の職員を含めて検討しました。その主なものを要約しますと

(1) 利点

- ア. 買受業者と接触する機会が多く需要動向の把握、知識の向上に役立つこと
- イ. 買受業者が盤台に搬入された1本1本の材について、それぞれの形質に応じ点付けをするため有利採材、有利販売につながること
- ウ. 木材市況が低迷している中で、不落物件がないこと

(2) 問題点

- ア. 買受業者により長級等採材方法が多種多様であること (写-5)
- イ. 全木の両木口に木口表示をしなければならないこと (写-6)

写-5

写-6



- ウ. 採材方法が多種多様であるため材積の把握等計測手の事務処理が煩雑であること
- エ. 引渡しを終了した物件の金額等を把握するためその日のうちに概算物件明細

再掲表等を整理しなければならないこと

オ. 一契約毎に買受業者の採材方法が異なるので土場残の把握をしながら精算しなければならないこと

カ. 現場及び販売係において精算時の最終精算数量の把握が容易でないこと

キ. 造材中は、常時計測手が盤台に張り付いていなければならないこと

### (3) パソコン利用についての意見

ア. 材積の把握、生産報告書等の事務処理ができないか

イ. いろいろな問題はあると思うが仮評定までできないか

ウ. パソコン化した場合、事務所にパソコンがないのでどうするのか

エ. そのため生産係・販売係で入力処理した場合、送状及び数量の把握等をどうするか

オ. 分散処理システムのうち製品生産・販売システムとの係わりをどうするか

### (4) 対応策

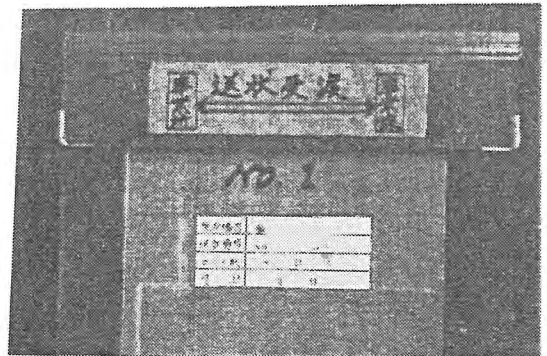
分散処理システムにより材積の把握、生産報告書の作成等は可能ですが、本格稼働となれば連日引渡し結果を入力する必要があります。しかし、他処理（造林事業システム等）と時間帯が重なり入力したい時間に入力できないことがあります。

また、たとえF1入力を入力しても時間がかかることや誤入力した場合の訂正に相当の時間を要すること等の不便さがあります。

この不便さを緩和するとともに、確実なものとして一度に入力したいと考えファイル管理の簡便さ、コマンド（命令）の理解しやすさ等から、市販のデータベースソフト（dBASE III PLUS）を使用し、樹種、長級、径級、材質、本数を入力するだけで材積の把握・各種集計・仮評定等まで可能なシステムを作成しました。

事業所にパソコンがないため生産係と販売係で入力処理することにしました。また、事業所と営林署が近いということもあって「発送バック」（写-7）を作成し毎日やり取りすることとし、日計表を整理するために必要な本数、材積などは、朝の定時連絡時を利用することにしました。

写-7



#### 4. 操作方法

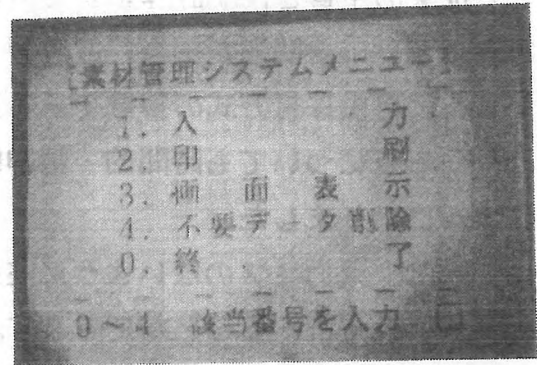
このシステムは、一契約毎に送状毎の樹種、長級、径級、材質、本数を入力してデータを管理するものです。

操作方法是、

##### (1) 起動

- ア. dBASE IIIを起動します
- イ. システムを起動します
- ウ. システムメニュー画面(写-8)が表示されます
- エ. 処理したい番号を選択すると次のメニュー画面に移ります

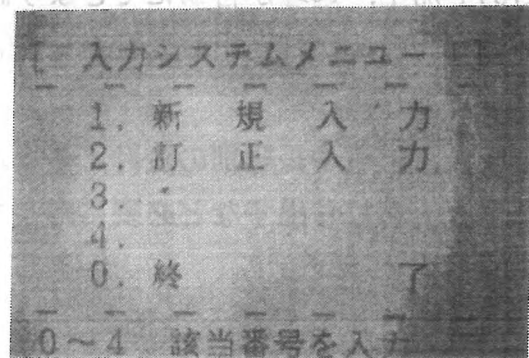
写-8



##### (2) 入力

- ア. 1の入力を選択した場合、入力システムメニュー画面(写-9)が表示されます
- イ. 新規入力と訂正入力を入力します

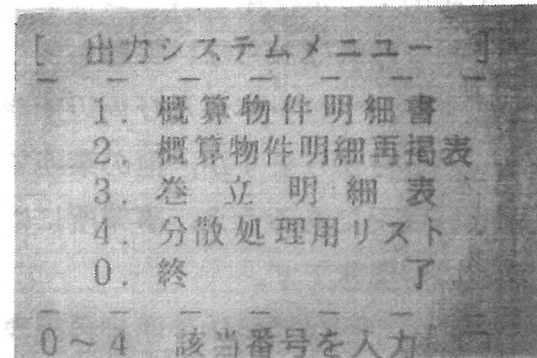
写-9



##### (3) 出力

- ア. 2の印刷を選択した場合、出力システムメニュー画面(写-10)が表示されます
- イ. 処理したい番号を選択します

写-10



このようにメニュー画面に従って簡便に操作出来るようにシステム化しました。

#### 5. 実行結果

実際に本システムを運用してまだ数カ月しかたっていないので営林署、事業所と

もシステムに慣れる段階にありますし、今後改善の必要な部分もありますが、よい成果が得られました。

すなわち、問題点として指摘されていた材積の記入や概算物件明細再掲表の整理など従来の手書き、手計算による事務の煩雑さ、事務処理速度の遅さ、誤記入や計算違いといった問題が相当程度改善されてきました。

また、自由採材方式の特徴である長級が多種多様であり、両木口に木口表示が必要である点についても時間的・精神的に余裕をもって安全作業に徹することができるようになりました。

そして、入力ミスのないように注意していれば、これまで生じていた計算や印刷の間違いは解消することができます。

また、このシステムに入力、処理されたデータはすべてデータベース化されているので加工、処理が容易にできます。そのため、生産報告の内訳書や引渡し物件の一覧表を即座に打ち出すことが可能となり、分散処理システムへの一括入力が可能になりました。

また、材質や長級別の合計、事業地別の合計などをとったり、条件にあった物件のリストを打ち出すなど必要に応じた処理が簡単な命令（コマンド）で可能になりました。

## 6. 今後の課題

上記のように、本システムによりいくつかの成果がありましたが、今後も解決していかなければならない課題も多くあります。

まず、パソコン本体及び周辺機器の充実が求められます。今現在営林署にはパソコンが3台ありますが、他の業務でも使用する頻度が多く、使用したい時に使用できない状況にあるうえ、事業所にはパソコンがないので運用には営林署に頼るしかないのが現状です。

次に、今回は概算物件明細再掲表などについて既存の様式を使用せず独自の様式を作成しました。これにより、連続印刷が可能となり時間の短縮になりますが様式が認められていないため正式な報告書として使用することができません。

また、現行の概算物件明細書では、記載やパソコン入力の際、不便な点が多く簡便な様式への変換が必要です。

分散処理システムとのデータ交換が容易となれば、入力処理を1回で完了することが可能となるのでデータ交換プログラムの作成が急がれます。

## 7. おわりに

以上、小国署における素材概算販売へのパソコン利用について紹介してきましたが、営林署、現場職員が一体となって初めて実行できたものであり、今後も現場職員を含め検討、改善に全力を尽くして行きたいと考えています。